

## 普及活動情勢報告（令和3年3月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

### 「栗を植えました！」 ～農事組合法人 大野見野の風～



定植後の栽培アドバイス

集落営農組織である「（農）大野見野の風」が、2月21日から25日にかけて、新たな品目の取り組みとして、栗の早生、中生品種220株（72a）を総勢6人で定植しました。

初めての果樹栽培ということで、当課で土壌分析や定植時の留意事項等助言を行いました。組合員からは、「植え穴をスコップで掘ったが大変だった」、「シカやウサギの対策も手間がかかった」等の声がありました。

当課では、関係機関と連携しながら栗の生育に合わせて、栽培の助言を行っていきます。

### 普及活動内容について意見交換 ～ 第2回須崎地区農業改良普及推進協議会 ～



会議の様子

2月25日、須崎地区農業改良普及推進協議会を、外部委員12名の参加のもと開催しました。

当課から今年度の普及活動の取り組み内容や実績、次年度の普及計画の概略について説明し、その後意見交換を行いました。

委員からは、本年度はコロナの影響から販促活動ができなかったが、YouTubeを活用したこと、来年度から課題に取り上げている、データ活用による生産性の向上やドローンを活用したスマート農業の動きなどについて、多くの質問や意見が出されました。

当課では、委員からいただいた意見等を次年度普及計画に反映させ、引き続き関係機関と連携しながら課題解決に取り組んでいきます。

### 「飼料用米進めてます！」 ～（株）土佐くろしお村 村営みのり～



支援チーム会

3月1日、JA土佐くろしお会議室において、（株）土佐くろしお村 村営みのり（以下、村営みのり）の中山間農業複合経営拠点支援チーム会が、関係機関9人で開催されました。

チーム会の中では、経営収支に影響する飼料用米や新たな担い手体制の構築等が協議されました。飼料用米については、R2年度の実証試験を基に、R3年度には施肥量や栽植密度を変えて早期～普通期稲の品種間リレーに取り組む事になりました。

当課では、関係機関と連携しながら飼料用米の栽培実証に向けて、協力していきます。

## 津野山地域のこれからのを考える ～津野山地域営農連絡協議会～



真剣に協議する協議会メンバー

3月2日、JA高知県高西地区津野山営農経済センターにおいて、梶原町、津野町、JA、振興センターの計12名が集まり、津野山地域営農連絡協議会全体会を開催しました。

全体会では、JAと振興センターが計画した13のプロジェクトについて、R2年度の活動実績報告と次年度に向けた計画について協議しました。コロナ禍でもあり、年度当初に立てた計画の実現に向けて取り組んだ内容を、短時間で効率よく説明し、質疑応答を経て承認されました。

当課では、農業関係機関と連携しながら、津野山地域の農業振興を全力で進めていきたいと考えています。

## 「ここはどうかちゅうろう？」 ～「人・農地プラン」の実質化に向けて～



農地の耕作状況等を確認

3月3日、須崎市浦ノ内にあるJA土佐くろしお浦ノ内支所において、「人・農地プラン」の座談会が開催され、生産者6人の参加がありました。

アンケート結果から生産者の年齢や後継者の有無を落とし込んだ地図を基に、この農地はどうか等実態を協議しました。座談会では、「水稻なら、〇〇さんなどが作ってくれる。」、「園芸なら、JAに相談して、ハウスを活用する」等の熱心な声がありました。

当課では、関係機関と連携しながら「人・農地プラン」の実質化に向けて、関係機関と進めていきたいと考えています。

## よさ恋バナナの販路を少しずつ広げています ～6次産業化支援チーム会～



チーム会の様子

3月10日に、「よさ恋バナナ」の販路の拡大を支援するため、アドバイザーを招へいし、須崎市浦ノ内で令和2年度第3回目の6次産業化支援チーム会を開催しました。

今年度の活動では、商品をPRするのぼりの作成や、商談会への参加、訪問による個別での商談等を行い、地道な活動によって新たに2つの販路を開拓できたことをチーム会で確認しました。

今後は、コロナ禍により販売環境は厳しい状況ですが、チームでの地道な活動を積み重ねることにより、販路の開拓に取り組んでいく予定です。

当課では、チーム会の開催等により、引き続きよさ恋バナナの販路拡大を支援していきます。